

**テーマ：景気動向指数（9月）の予測**

発表日：2009年10月30日（金）

～基調判断は「局面変化」に上方修正される見込み～

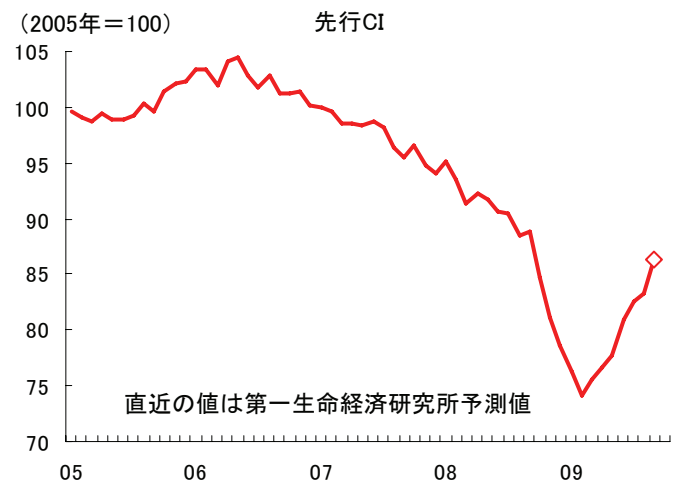
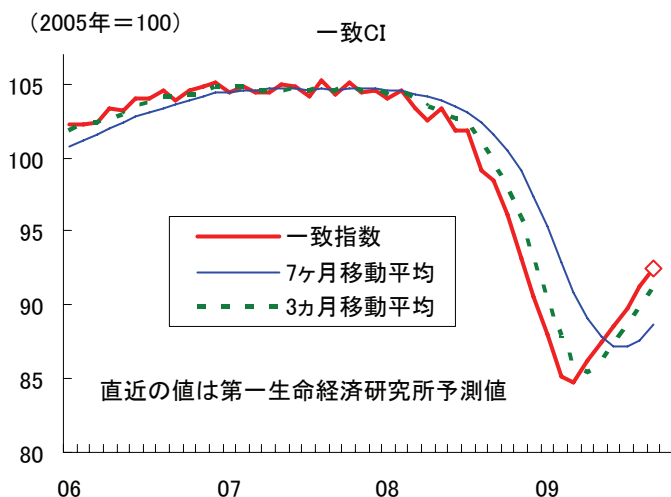
第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主任エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

11月6日に公表される09年9月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+1.3ポイントと、6ヶ月連続の上昇を予想する<sup>1)</sup>。在庫調整の進展や輸出の増加等を背景としてC I一致指数は09年3月をボトムに上昇しており、景気が回復基調にあることが示される見込みだ。内訳では、大口電力使用量が僅かにマイナスに寄与するが、その他の系列はすべてプラスに寄与するとみられる。特に、生産財出荷、投資財出荷、所定外労働時間などの寄与が大きい。

また、C I先行指数も前月差+3.2ポイントと、7ヶ月連続の上昇を予想する。上昇幅もかなり大きい。景気に先行する傾向のある経済指標の一部で今後の景気減速を示唆するものも出ているが、C I先行指数からは、まだ景気減速のシグナルは出ていない。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、8月までの「下げ止まり」から「局面変化」へ上方修正される見込みである。上方修正は、5月分改訂値以来のことになる。内閣府の定義によれば、「局面変化」とは「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。」とされている。一致C Iからも、景気が回復局面にあることが改めて確認されることになるだろう。

ちなみに、9月分で基調判断が上方修正された後、10月分でC I一致指数が前月差で僅かでも上昇した場合、基調判断は「局面変化」から「改善」へとさらに上方修正される。C I一致指数の動きと強く連動する傾向のある鉱工業生産指数が、予測指数からみて10月も上昇する可能性が高いことを踏まえると、10月分でも基調判断の上方修正が行われる公算が大である。



1 一致指数の採用系列である所定外労働時間指数(製造業)(11/2公表)が現時点で未公表であるため、今回の試算では前月比+3%と仮置きして計算している。